

化しないという確信があった。

また事実その通りでもあった。

昭和二十年八月九日の原子爆弾は長崎市内を大半灰燼にし、数万人々を殺した。爆心地より一・八キロメートルの私の病院は、死の灰の中に、廃墟として残った。私と私の病院の仲間、焼け出された患者を治療しながら働きつづけた。

私たちの病院は、長崎市の味噌・醤油の倉庫にもなっていた。玄米と味噌は豊富であった。さらにわかめもたくさん保存していたのである。

その時私といっしょに、患者の救助、付近の人びとの治療に当たった従業員に、いわゆる原爆症が出ないのは、その原因の一つは、「わかめの味噌汁」であったと私は確信している。

放射能の害を、わかめの味噌汁がどうして防ぐのか、そんな力が味噌汁にどうしてあるのか。私は科学的にその力があると信じている。

もし人体実験が許されるのなら、実験してもよろしいとさえ思っている。アメリカで実験されたことであるが、鼠を飼育してその飼料に脂肪を全然入れない一群、樫(かや)の油を5%混じた場合、さらに樫の油を20%混じた場合、この三群に分けて致死量の放射能を照射した。

その結果、樫の油の全然入っていない飼料の鼠はほとんど死亡した。脂肪の入った飼料の鼠は、5%、20%の場合も死亡は三分の一に減っている。

味噌は鼠にとって適当な食物でないから大豆でもよいと思う。人